

細江カトリック教会だより

2月号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

遠い春の訪れ

今年の冬は寒さがとくべつに厳しく、下関でも昨年11月半ばから現在までの平均温度が例年より3度以上も低いとか。2月になって、日は少し長くなったものの、寒さはなかなか緩みません。春の訪れはまだ遠いようですが、2月14日は早くも灰の水曜日。四旬節が始まります。

四旬節は、主のご復活の祝いを準備する時です。

主が私たちの救いのために受難と死の道を歩まれたことを、いつもより心して思い、黙想しましょう。

それは、主キリストによってもたらされた新しい

いのちとその喜びを、私たちの現実の生活の中で生き生きと体験できるようになるためです。現実の生活には、仕事のこと、健康のこと、家族のことなど、さまざまな苦勞と心配があります。しかし、その中に主がともに歩んでくださり、正しい方向に導いてくださり、力と勇気を与えてくださることを、しっかりと心に刻みましょう。

白浜司教さまは2月1日付けで、広島教区の司祭たちの異動を発表なさいました。これまで細江教会と彦島教会の主任司祭を勤めさせていただいた私は山口教会に転勤になり、代わって佐々木良晴神父さまが就任なさいます。改めてご紹介するまでもなく、佐々木神父さまは7年前まで山口・島根地区の地区長と信望愛学園の理事長を勤められた方で、この7年間は東京の聖イ

グナチオ教会（信徒数16,000人）の主任司祭の役割をりっぱに果たされました。豊かな知識と経験をもって、これからの細江教会の成長のために奉仕してくださることでしょう。

私たちの人生も、教会の歴史も時を刻み、私たちが望むか望まないかにかかわらず、過ぎていきます。しかし、忘れてはならないのは、過ぎ去っていくものの中に過ぎ去ることのない永遠のものがあることです。それは、

神さまがお約束なさったいのちです。この福音を世の人々に告げるために、神さまは主キリストを通して私たちをお招きになりました。教会は、この使命にお仕える共同体です。そして、神さま

がお与えくださったいのちへの憧れは、歳を重ねるにつれ、むしろより大きく育っていくものです。たとえ体力と気力が衰えても、主がともに歩んでくだされば、心の深いところで喜びと勇気をもつことができます。個人としても共同体としても、今年の四旬節を新たな心で迎えましょう。

百瀬 文晃 神父



*中央の写真はイエズス会神学院
*トラピスト雪の聖母修道院

地区だより Ⅹ

洗礼式を終えて

クリスマス夜のおもてなし

北部地区

イベントがあり北部地区の担当となりました。いつも何かときちんとされているので、私は不安になりました。しかし、昨年のレシピを貰って買い出しへと思っていたら、そんな時「良品を安く買えるから」と引き受けてくださる方があって、助かりました。

当日になり、地区の方々は時間より早く来てくださり、他の方々もテーブルの設定、アドバイスとお祝いのパネル飾りをしてくださったり、湯飲み洗い・急須・ポットと並べられ、手際よく準備が整い、お菓子・ワイン・紅茶・コーヒー等の差し入れもありました。

お花の飾り付けも慣れた手つきで、ハサミをパチンパチンと上手に使って可愛くできあがり、準備万端整いました。

ミサ後のぜんざいも「美味しかった!」と多くの方が言うてくださり、寒かったのですが心はホットな気分になった聖夜です。

ある家族の方が『足あと』という詩の箇所、私が辛く苦しい時「どうして神さま一緒にいてくださらなかったのですか?」と尋ねたところ、「あなたを背負っていたのですよ」という答え・・・そのカードを見た時、急に熱いものがこみあげてくるのを感じたと分かちあってくれました。

高齢化となりつつあり、距離的にも車がないと不便な地区ですが、神さまにより頼みながら・・・感謝です。

糸永 恵美子



2018年という新しい年を迎えた。多くの方々に見守られ、1月14日の御ミサの中で、遂に我が子の洗礼を授けていただくことができた。沢山の方々に祝福され、おめでとうと声をかけていただき、とてもしあわせな気持ちになった。

教会とは、ホッとできる居場所、神様を感じられる場所、自分の存在を改めて感じられる場所。そのようなところだと信じている。

大学生の時、東京に住んでいた。ある時、東京の桜町教会へ行った。その時の私は、苦しいことが重なって、自分でもよくわからないような、記憶にないような時を過ごしていた。

たった1人で、静かな誰もいない聖堂で祈った。涙がツーッと流れて、神様が頬を撫でてくれたような気がした。同じ頃、イグナチオ教会の日曜学校のリーダーをしていた。たくさんの方や、リーダーをしている仲間、子供たちと出会い、皆で心一つにして歌ったり、お祈りしたり、救われた。

私自身が子供の頃は、よっぽどのことがない限り、ほとんど毎週日曜日の朝教会に行き、その流れで日曜学校へ行き、神様のことを少しでも知ることができた。一日中教会へいたことも珍しくなく、楽しかった。たくさんの方々

が声をかけてくださった。同じくらいの年の子供たちも、朝から私と同じように日曜日を過ごして、教会の中でお友達もできた。

これから大きくなっていく我が子にも、たくさんのお友達ができ、繋がりをもてたら嬉しいなと思う。そして、楽しく神様のことを知ってほしいと思う。

そして、子供の名前を考えると、真っ先に「樹」という字が頭に浮かんだ。聖書の、ぶどうの樹が出てくる箇所が好きだった。

名前を一文字にするというのも良いけれど、この子の父親の「郎」という字をもらって「樹郎」。ミキロウと読む。樹郎の父親の名前は拓郎、拓郎の父の名は俊郎で、彼は、20年前に他界し、拓郎が生まれたときに「郎」を子供の名前につけたいと言っていたそうで、その気持ちを孫にあたる樹郎に込めた。洗礼名は使徒ヨハネ。私の父(樹郎の祖父)と同じ洗礼名に決めた。

人と繋がることは平和への道。色々な思いをもって迎えた新しい命が、世界の隅々まで平和を届けるお手伝いができますように。

三吉 光



(ぶどうの樹)

*みきろうちゃんの洗礼式。

みきろうちゃんご家族の上に限りない神さまの愛がそそがれますようにと…みんなで祈りました。

典礼研修会 1/27 (土)



*分かりやすくお話する白浜司教さま。

去る1月27日、宇部教会で山口島根地区典礼研修会が開催されました。聖堂内は、各教会の信者さんたちでいっぱいになり、パイプオルガンの音色が流れる中、司教様のご登場を今か今かと待ちわびる雰囲気になっていました。

2015年に「ローマ・ミサ典礼書」総則の邦訳が承認されたにともない、日本司教団が日本で実施する項目を決めたこと。共通の典礼を行うことは司祭個人や共同体の自己流ではなく、教会の一致を目に見える形で示すために重要であること。

具体的には、ミサの主体が私たちを招いておられる復活の主キリストであり、祭壇はキリストのシンボルだからその前で特別の表敬の礼をすること、待降節や四旬節には祭壇の前の花や飾りをつつましいものにする、朗読台は祭壇と並ぶテーブルとして一つであることなど。

ミサを味わい深く、美しく司式するため、各教会共同体全体で、ミサについて見直し、学ぶ機会としたい、とのお話でした。

講義のあとには、質疑応答の時間が設けられ、日頃のそれぞれの自教会における疑問に、司教様が丁寧にお答えになっておられました。

木下 公恵

イエスの小さい姉妹の友愛会

修道会のご紹介

イエスの小さい姉妹の友愛会



* 下関の家の聖堂にて。

私たちの会は、生き方や霊性をシャルル・ド・フコー（1858～1916）からいただいている会です。シャルル・ド・フコーという人は、ナザレのイエスに惹きつけられた人でした。いと高い全能である方が、ナザレという村人の一人になって人々に近づき愛して、また御父の愛を教えてくださいました。シャルルは、このイエスのように生きたいと望み、みんなの兄弟になること、イエスを知らない人々に近づくこと、言葉でなく生きることで目に見える福音となることを望んで、サハラ砂漠のイスラム教徒の人々の友情の中で生きました。彼は同じ志を持つ修道仲間を待っていましたが、実際には孤独の内に世を去りました。彼の死後、このシャルルのようにいきたいと望んだマドレーヌ（1898～1989）が、サハラ砂漠に出かけてイスラムの人々と生活を共にし、神様と教会の導きによって 1939 年にこの会を創立しました。

日本には 1954 年に最初の創立があり、今では 6 つの家があります。下関は今 3 人で生活していて、2 人は生活費を稼ぎに外で働き、1 人は家の仕事や近所の方を迎えたりしています。

皆さんもお立ち寄りください。

下関市神田町 2-4-6

幼稚園便り

◇防犯訓練◇



* 玄関に押し入った不審人物役をトアンさんが演じました。（トアンさんの姿に笑いを堪えて）先生が穏やかに対応し、ホールにいる園児たちをセンターへ速やかに誘導する。



* 園児たちはカトリックセンターへ避難した後、先生のお話を注意深く聞いていました。

◇餅つき◇



* 園児たちは、小さな杵で湯気の上上がった石うすに、ペッタンペッタンとお餅つき。冬の寒さに負けない子どもたちの歓声と湯けむりの中で、心温かくなる風景。

◇四旬節黙想会のお知らせ◇

日時；2月25日（日）9：00 ～
講師；アント・フランシスコ神父
（イエズス会）

* 昼食後、ゆるしの秘跡

